



矢萩 保雄

一般社団法人東北経済連合会 政策会議副議長

東北の未来を創るラインマン

送電線は発電所と需要地を結ぶ重要な設備であり、安定供給の大きな役割を担っています。山間地を通ることが多く、建設・保守には多くの苦勞が伴います。

先日の現場パトロールでは猿の群れに会いましたし、ラインマンの方々によると前日は熊が出たとのことでした。私達は送電線の作業をする方々を親しみと敬意を込めてラインマンと呼びます。

今、東北における送電線工事は東京、東北を結ぶ連系線増強や太陽光・風力発電導入に伴う線路新設、さらには経済成長期に建設した既設送電線の更新と工事量が急増しています。

また、近年では2011年東日本大震災、2018年北海道胆振東部地震でも、送電設備が被害を受け復旧力の向上が求められています。

一方で、人口減少や高齢化によりラインマンの減少が続いており施工力確保が課題です。

ラインマンは全国に約5,200人いますが、この10年で約1,000名減少しています。

このため、業界では新たな人材確保策として、技能の国家資格化、作業の効率化、処遇改善等を進めています。

国家資格化については、時に100メートルを超える鉄塔上で作業をするプロに対する「送電技能士」の認定制度を創設し認知度向上と、ラインマンの更なるモチベーションを高めようとするものです。

作業の効率化に関しては、機械化・省力化に加えデジタル技術の活用と様々な取り組みがなされていますが、ここではドローンの活用を紹介します。山間地で徒歩による設備点検や鉄塔間の電線を張る作業は困難を極めていました。

これらについてドローンのカメラを使用した設備点検、電線を張る事前作業として、鉄塔間にドローンでロープ渡しをすることなどにより短時間で楽に作業ができるようになりました。

現場でドローンによるロープ渡しを視察しましたが、約200mの鉄塔間距離を3分で終えました。人力で道路、河川、工作物を乗り越えながらロープ渡しするには、5〜6人で2〜3日を要する作業でした。今後さらなる活用拡大を検討しているところです。

処遇改善については、働き方改革も考慮し、計画的休日の確保を目指すこととしています。送電線の工事に当たっては停電が伴う場合も多く、停電調整の際にお客さまより理解を得ることが休日確保の鍵になっています。

私は現在、一般社団法人送電線建設技術研究会の東北支部長として送電線工事の安全確保や一般の方々への理解促進に取り組んでいるところです。

過去においても多くの先人が様々な困難に立ち向かい乗り越えてきた結果、今日の産業・経済の発展につながっています。私たちも現在の困難な状況を知恵と工夫で乗り切れると確信しています。

(株式会社ユアテック 相談役・やはぎ やすお)